

息の長い相談活動

中学時代の不登校の相談からかかわってきた子どもたちがやがて高校、大学に進学して家族から安堵の声が届くことはあまりありません。子どもが成長し、その生活が新たな局面を迎えるとまた新たな悩み事がうまれるからです。相談担当者の息の長い支援が続いています。

高卒認定試験に向けて

一年前に受けた学習支援の相談は高卒認定試験に向けてのものでした。高校中退後、いくつかの職業について後に准看護学校に入学したという女性（Aさん）からのものでした。Aさんによれば、卒業後、准看護師として働き続けることも考えられるが、できるならば高等看護学校（以下高看）に進学して正看護師の資格を取りたい。しかし高卒資格をもたない彼女は高卒認定試験を受けてパスしないと受験できないというのです。私はこれまでも高卒認定試験の学習支援をおこなったことはありましたが、認定を得るまでには至りませんでした。その時の若者とAさんでは意欲と目的意識に大きな差がありました。彼女は中学生の一人娘を育てるシングルマザーだったのです。

みんなの支援

6月下旬から始まった勉強は8科目におよび、英数国社の各指導者とAさんの予定をつきあわせて指導日をきめて取り組みました。試験は8月上旬。短期間での学習は十分とはいえませんでした。7科目で合格を勝ち取ったことはAさんの努力のたまものと言うほかはありません。11月の2回目の受験チャンスに「科学と人間生活」の合格を目指しました。

新聞取材から新たな展開に

Aさんの努力が新聞記者の知るところとなり、取材を受けました。記事化されたその日、フォーラムに電話がかかってきました。「新聞を読んだが、私も無料学習支援を受けたい」というも

の。さっそくやってきたBさんもまたシングルマザー。出産、子育てを機にこれまで勤めていた医院での事務の仕事をやめて看護師になりたいと思い、一か月前に高等看護学校を受験して不合格になったばかり。一年間、アルバイトをしながら勉強して再受験に備えようと決心したところで新聞記事に出会った。「私のための記事だと思いました」

1月の試験に向けて

Aさんが高卒認定試験の最後の1科目の合格が決まってからは二つ目の目標である高看受験に向けての勉強が始まりました。実はAさんと同じ准看学校に通っているCさんはフォーラムでの学習支援の経験者でした。Aさんがフォーラムの門をたたいたのもCさんの紹介によるものでした。Cさんも一人で子どもを育てながら勉強と仕事をこなしている頑張り屋さん。そういうわけで始まった学習支援は1月に入って生徒も先生も必死の表情。時には子ども同席で行われました。二人がいっしょになると情報交換も盛んに行われてこれも大いに意義ありでした。

努力が報われて

3人の挑戦はその努力が報われてみなさん合格。この4月からは晴れて高看学生になりました。勉強と仕事の両立もさることながら、子どもを抱えての生活はさまざまな困難が待っていると思われませんが、のりこえてほしいものです。

女性の貧困は深刻

こんな状況を運営委員会で報告するとある運営委員から、同じような境遇の女性を知っているとの発言がありました。「彼女には仕事の選択肢がない。深夜に及ぶ飲食店勤務を選ばざるをえない。本当に深刻な状況だ。話を聞くだけで何もしてやれない。フォーラムの取り組みを知れば救われる女性は多いはず」と。

《文責：倉林 順一》